

広報すずらん

2015(平成27年)

4月発行
第55号

発行日：平成27年4月1日（平成8年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらの会 理事長 大長 義信

〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会 ホームページURL: <http://www.suzuran.or.jp>

新年度に向けて 理事長 大長 義信

皆様の暖かいご支援とご協力のお陰で、平成26年度の事業運営を無事に終了する事ができ、新しい年度を迎える事が出来ました。

とりわけ昨年度は、すずらの家とばれっとを中心として事業の再編成を計画し、環境整備に必要な設備を拡充する方向の努力を重ねて来ました。実施途中での紆余曲折はありましたが、何とか当初計画通りに事業を開始できる所までこぎつける事が出来ました。今迄抱えて来た多くの課題を少しずつ改善出来る足掛りになるものと期待していただきたいと思います。

昨今の社会福祉法人経営を取り巻く環境は、数年前に新聞紙上で内部留保問題を大々的に取り上げられて以来非常に厳しいと言われ続けています。非営利法人の一面を担う法人としてその在り方や存在意義さえ問われるようになってきています。日本にある2万近くの社会福祉法人の多くは、立地する地域で地道に地域福祉の向上に努力し地域貢献を果たして来ました。今迄私達に足りなかった事と云えば、私達の地域における行動やその成果を外部に発信する努力を怠って来た事ではないでしょうか。27年度には、今迄の反省と様々な議論を踏まえて、社会福祉法人を巡る法整備が行われようとしています。私達は掲げている理念に則り障害者福祉の本業の拡充に邁進すべしと考えています。



新事業所開設にあたって

総合施設長 松屋 直人

この4月1日から、当法人として3番目の自己所有建物での「スタートル」(生活介護 定員20名)及び「みらい」(グループホーム 定員6名)の運営を開始するとともに、本部も新事業所に移転いたしました。

今まで、不十分な環境の中で、ご迷惑をお掛けしてまいりましたすずらの家生活介護の利用者の皆様には、少し快適な環境を提供させていただけることになり、今後到来するホーム利用者の高齢化に対応できる場も何とか一つ確保することができました。

諸般の事情で、当初計画を大幅に縮小した形でのスタートとなりましたが、利用者並びに地域の皆様、相模原市や福祉医療機構等の関係機関の皆様からのご協力のおかげで、無事開設の日を迎えることが出来ました。厚く御礼申し上げます。また、短期入所等の当初計画から積み残された課題については、今後できる限り早期に実現できるよう、努力していきたくと思っています。(次ページへつづく)



休憩室(食堂)



(前ページより/新事業所開設にあたって)

当事業所は、平成11年のグリーンハウスの運営開始後、次の検討課題として、①作業所等(すずらんの家・タートル・フィルイン)及び児童デイ(ばれっと)の環境整備、②法人として不足しているサービス(短期入所及び高齢・重度対応ホーム)の設置を目的に検討が開始されたものです。

自立支援法施行に伴い、「すずらんの家」と「タートル」、「フィルイン」と「ばれっと」の移転統合を実施しましたが、残念ながら環境整備については十分な対応が出来ませんでした。

法人の抱える課題解消には、新事業所建設が必要との判断で、国庫補助が無理であることが判明しましたが、これ以上先送りすることが出来ないこと及び後援会からの全面的な協力でグリーンハウスの運営が軌道に乗り資金が確保できたため、総て自己資金で賄う具体的な新事業所建設計画を策定し、平成25年9月に工事入札を実施しました。しかし、東京オリンピックの開催決定等の影響で、建築コストが高騰し、予定価格での応札が無いばかりか、最低提示価格が予定価格の3割アップという事態に直面してしまいました。そこで、規模を大幅に縮小して実施することとし、何とか今回の事業所開設にこぎつけることが出来ました。

職員一同、より良い利用者サービスの実現に邁進するつもりですので、温かく新事業所を見守っていただきますようお願い申し上げます。

【みらい(共同生活援助)から】

ホームすずらんでは10ヶ所目のホームです。夜間の宿直を配置し、男性3名・女性3名の方に収納設備が充実した部屋で過ごしていただけます。真ん中に位置する広いリビングやベランダも、有効に活用できます。また、車いすの方も受け入れられるよう、浴室やトイレの手すりを多くし、ゆったりとスペースを取りました。

【タートル(生活介護)から】

すずらんの家、活動班がタートルとして定員20名で活動をスタートします。タートルでは日常生活上の支援、生産活動や創作的活動を含む日中活動を支援しています。新施設は、小グループに分かれて落ち着いて活動ができる環境になっています。日中活動の中で、週1回の音楽療法士による音楽療法(楽器の演奏や歌など)を通して、順番を待つ・相手の話を聞くなどの社会のルールが身に付くように支援していきます。

■新事業所所在地
〒252-0328 相模原市南区麻溝台7-6-4

<1F>すずらんの家法人本部 TEL: 042-745-8080
生活介護事業所『タートル』 TEL: 042-745-8108

<2F>ホームすずらん
グループホーム『みらい』 TEL: 042-745-8051



タートル作業室



エレベーターホール

みらい キッチン



みなさまからのご厚意に
感謝申し上げます

スリーエムジャパン労働組合 様
兒玉 秀雄 様

こちらに掲載させていただいた方々の他にも、年間を通して多くの方から数々のご支援を頂戴しております。(地域活動への招待、授産作業のご紹介、設備品・玩具・本の寄贈など)地域の方々をはじめとして、すずらんの家への事業活動に対する温かいご理解を賜り、そのご厚意に対し深く感謝の意を表します。今後も、お志に応えるよう努めて参ります。

ワークショップ・フレンド就労支援課

すずらんの会は、法人設立時より障害のある方たちの就労支援に力を入れて、様々な取り組みを行ってまいりました。そのひとつは就労後の定着支援です。就労の実現が支援の最終目標と考えがちですが、就労してからが本当の自立に向けてのスタートになります。社会生活では、多くの課題を乗り越える力が求められるため、就労後の定期的な会社訪問で、就労者や会社担当者からの相談、その時々状況を把握して、就労者が継続して働いている環境を整えていきます。

(就労先企業紹介) 関東メディカルサービス株式会社 様

相模原市中央区に本社を置き、寝具類のレンタル、リネンサプライ等の事業展開している関東メディカルサービス株式会社には、すずらんの会から現在2名の就労者が雇用を継続しています。地域の養護学校からも実習生を毎年受け入れており、平成26年8月1日現在の雇用率は4.55%、かながわ障害者雇用優良企業の認証をうけています。雇用定着の取り組みや、就労支援課との関わりについてご紹介します。



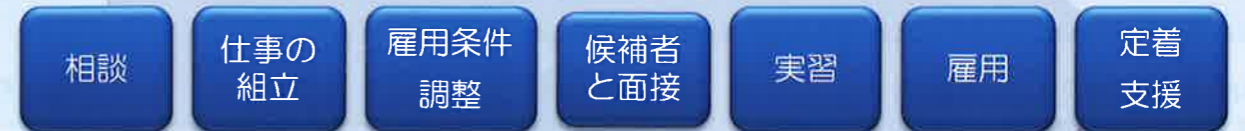
【関東メディカルサービス株式会社】
工場長 石原 正明 様

平成20年3月に初めて手帳を持った方を雇い入れた時は、従業員の理解を得るのが難しかったです。特に何か問題が起こると「やっぱりね」という雰囲気になりました。しかし、彼らが慣れてきて色々な業務を覚えようという意欲が感じられる様になると、周囲の見る目はガラリと変わりました。「結構やるじゃないか」という雰囲気になり、「これでイケる」と私も自信を持ってました。ここが成長を実感したターニングポイントです。機械の操作などもしっかりと覚えてくれて、今ではある程度任せられる様になっています。また、彼らが安定して業務を遂行できる様に、個々の能力に合わせて無理のない程度に業務を増やしていくように心掛けています。なお、会社の中には危険が伴う作業もありますが、安全面には十分に配慮して対応しています。また、社会人としてのマナーやルールをしっかりと守れる『良い大人』になってもらいたいと思いますので、気になる事があった場合は本人が納得してくれるまで話すようにしています。

会社内には色々な環境の変化があり、彼らにとって不安な事が多くあると思います。定着支援のためにすずらんの会の支援者が会社に訪問に来るので、彼らも安心して働く事が出来ていると思います。時には、生活面でのことが影響して業務に支障をきたす場合もあるので、会社として介入できない問題にも、就労支援課に依頼できるので、彼らが継続して働くうえで非常に良いと思います。会社にとって人材は業務上かせかせませぬ、彼らが安定して長く勤務してもらえるように支援者と協力していきたいと思っています。

会社内には色々な環境の変化があり、彼らにとって不安な事が多くあると思います。定着支援のためにすずらんの会の支援者が会社に訪問に来るので、彼らも安心して働く事が出来ていると思います。時には、生活面でのことが影響して業務に支障をきたす場合もあるので、会社として介入できない問題にも、就労支援課に依頼できるので、彼らが継続して働くうえで非常に良いと思います。会社にとって人材は業務上かせかせませぬ、彼らが安定して長く勤務してもらえるように支援者と協力していきたいと思っています。

雇用の流れ



※就労支援課では、実際に雇用を検討している企業に対するサポートを実施しています。業務分析、職場環境の調整、候補者の推薦、実習期間中のジョブコーチ、家族との連携調整など、雇用に関わる事に対する一貫したサポートを行い、企業と協力して多くの方々の就労を支援しています。平成26年度はすずらんの会全体で54名(平成27年3月1日現在)の方が企業へ就労しました。(平成25年度就労実績: 60名)



【就労者: 小野寺 秀浩さん】

(平成20年3月から勤務開始)

最初は、自分に今の仕事ができるのか、他の従業員について行くことができるか、不安だったし自信がありませんでした。不安だらけだったので、度々仕事を辞めたいと思い、就労支援課の職員や施設の職員、グループホームの職員に相談していました。

以前に比べると不安は少なくなりましたが、知っている職員が会社に来てくれるとほっとします。今はこの会社に勤めて良かったと思うし、働きやすいと感じています。

仕事をしていて、他の従業員のサポートをした事で「ありがとう」と言われた事がありとても嬉しかったです。これからもこの会社で頑張りたいと思っています。

(取材: 和賀)



利用者聞き取り調査結果

平成 26 年度の聞き取り調査（実施 6 年目）について

サービス向上委員会の振り返り

＜目的＞適切な支援が行われているか、みなさんからのご意見を聞き取り、より良いサービスの提供に反映する。

＜平成 26 年度の傾向＞

今回の調査では、通常の聞き取り項目に加えて、前回までの調査で対応を要する（要望を含む）と判断した事案について追跡調査を行いました。要対応の 64 件中、約 7 割は「解決済み」ということを確認することが出来ました。一方 3 割については、引き続き対応が必要と思われる回答を得ました。

事業所によっては「（職員が）忙しそうで話しかけにくい」「相談出来ない」等の回答が、これまでの調査に比べて大幅に減少していました。職員と話すこと、相談する機会の提供については概ね改善しているように感じます。また、新たに「気持ちを分かってきている」「相談したらすぐに対応してくれる」「困った時の対処について聞くと、しっかり対応してくれる」「話しやすい環境だと思う」「丁寧に作業を教えてくれる」などの良い内容のご意見も頂きました。

昨年度まで、聞き取りが難しい利用者の方々に対しては、聞き取り方法を工夫して絵カードや写真などを用いて調査を行ってききましたが、今年度は保護者の方々にご協力いただき、サービスの満足度をお伺いすると共に、適切な支援が行われているかの確認をさせていただきました。概ねサービスの内容に対して、ご満足を受けているという回答を頂きました。

結果については、サービス向上委員が各事業所を訪問してサービス提供責任者等へ調査結果を直接報告し、事業所と委員会で調査結果の振り返りを行い、サービスの質向上のための具体的取組を検討していきます。

＜今後に向けて＞ ハイน์リッヒの法則という「1：29：300」の法則をご存知でしょうか？それは、1 つの重大な事案の背後には 29 の軽微な事案があり、その背景には 300 のヒヤリハットが存在するというものです。聞き取り調査を実施したことで満足せずに、利用者のみなさまから頂いた貴重なご意見は、重大な事案につながっているという意識を持つことが大切です。いただいたご意見を真摯に受け止めること、支援について職員間での振り返りをする機会を増やして行くことが大切だと思いました。

（取材：及川）

すずらんの会では、多くの非常勤職員が働いています。

今号では、長きに渡りすずらんの会で働き続けている非常勤職員 3 名の、これまでに印象に残っていること、長く勤めて良かったと感じたことを紹介します。

●日中活動支援員

勤続 16 年

就職が決まった利用者が挨拶をするときの笑顔はとても印象的です。みなさんが自分自身で考えた言葉で挨拶していることに毎回感動しています。

また、利用者が自分の名前を憶えてくれて、イベント会場や街中で会った際に笑顔で声を掛けてくれることが嬉しいです。この仕事を続けていて、辞めようと思ったことがなく、人と関わる事が好きなのだと思いました。

●グループホーム世話人

勤続 15 年

ご両親を亡くされてグループホームの利用を始めた方が、部屋でじっと正座をして動かなかったことがありました。少しずつ心を開いてくれるよう接するうちに、毎日明るい笑顔で挨拶を交わせるようになりました。このような支援に接すると役に立っていることを実感します。また、年末年始など長期帰省からホームに帰ってきた時に「やっぱりここが一番落ち着く」と言ってくれたことがあり、家庭のようなあたたかさを感じてもらえるよう常に心がけているので、嬉しかったです。

●ホーム（ガイド）ヘルパー

勤続 13 年

措置の制度時代から、あいあい S で働いています。これまでさまざまな個性や特性のある利用者や接し、支援に対して迷いや疑問を感じることも多々ありました。そんな時には、事務所の職員を含めた第三者に相談することで、他者から助言を貰い一つひとつの場面を乗り越えてこられました。数々の助言や指導があったからこそ、今があると感じています。また、度を超えないようにと心掛けながらも、「仲良くなりたい」、「理解したい」という思いが強くあり、利用者の“笑顔”を引き出した時には、最高の“喜び”を感じます。

平成 26 年 12 月採用職員

すずらんの家配属（4 月よりタートル配属）

山口 新人（やまぐち あらと）



初めまして、福祉の仕事に就くのは初めてですが、新鮮な気持ちで日々取り組んでいます。知識や経験がまだ足りないので、日々勉強の姿勢を崩さずに頑張っていきたいです。これからよろしくお願ひいたします。（平成 27 年度採用職員については次号で紹介する予定です）

（取材：高橋、井上、杉本）

編集後記

多くの方にインタビュー取材を行なう中で、広報紙は様々な方の協力を得て完成するという事を改めて感じさせられました。また、「〇〇からこんにちは」をシリーズ化し、各事業所の特徴やその時期のトピックスを紹介してきました。今年度も法人の活動を、広報紙を通じて一人でも多くの方に知って頂けるようにしたいと思います。 杉本・和賀